

# 子どもの未来を信じて 課題のある幼児への支援

埼玉県立小児医療センター  
病院長

岡 明

2024年1月31日

第43回母子健康協会シンポジウム「発達や行動が気になる子どもへの園での対応」

# いわゆる「気になる子」

2016年 日本保育協会の調査報告から

いわゆる「気になる子」とは

障害の診断は受けていないが、障害の疑いが感じられる子どもや保育上の支援を要する子ども

気になる子どもの課題

- 発達上の問題/コミュニケーション
- 落ち着き/情緒面
- 運動面/その他

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

# 保育所のいわゆる「気になる子」

2016年3月 日本保育協会調査報告より

## 受け入れの実態

9割以上に「気になる子」がいる

## 気になる内容（頻度順）

- 発達上の問題（発達の遅れなど）
- コミュニケーション（やりとり・視線・集団参加など）
- 落ち着き（多動・落ち着き・集中力など）
- 情緒面（乱暴・こだわり・感情のコントロール）
- 運動面（ぎこちなさ・不器用など）

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

# 保育所のいわゆる「気になる子」

2016年3月 日本保育協会調査報告より

## 「大変むずかしい」あるいは「むずかしい」という回答の割合

### ●保育の現状：

- 集団での保育（82%）
- 園外での保育（69%）
- 行事の企画運営（71%）

### ●その子自身への対応：

- こだわり・パニックへの対応（78%）
- 生活習慣の確立（69%）
- その子についての理解（73%）

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

# 保育所のいわゆる「気になる子」

2016年3月 日本保育協会調査報告より

## ● 保護者への対応：

### 「大変むずかしい」あるいは「むずかしい」という回答の割合

- その子についての共通理解（78%）
- コミュニケーションをとること（66%）
- 保育の実践のための連携（69%）

## ● 「気になる子」の日常生活や発達状況の保護者への報告

- こどもの生活や発達状況に変化があった時に報告（59%）
- 定期的に個別面談（16%）
- 保護者から求められる都度報告（9%）

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

# 保育所の障害児

2016年3月 日本保育協会調査報告より

## ●各障害種類の割合

- 自閉症（自閉的傾向） 35%
- 知的障害 20%
- ADHD 15%
- 肢体不自由 8%

年齢が上がるほど、自閉症とADHDの割合が上昇

「2016年 日本保育協会 保育所における障害児やいわゆる「気になる子」等の受入れ実態、障害児保育等のその支援の内容、居宅訪問型保育の利用実態に関する調査研究報告書」より引用

# 今後、5歳児健診の普及へ

国によるこども・子育て政策の強化の流れ

- 2018年12月 成育基本法成立
- 2023年1月 「異次元の少子化対策」
- 2023年4月 こども家庭庁設置
- 2023年12月 「こども大綱」の制定

## 乳幼児健診の実施状況（2021年度）

健診の時期	地域での実施率
1歳6か月	義務法定健診
3歳	義務法定健診
3～5か月	99.5%
9～12か月	81.0%
1～2か月	32.8%
5歳児	15.0%

## 母子保健法上の規定



# 今後は5歳児健診が展開

## ●対象

- 実施年度に満5歳になる幼児（4歳6か月～5歳6か月）
- 幼児期において幼児の言語の理解能力や社会性が高まり、発達障害が認知される時期
- 就学時に特別な教育的配慮が必要な児に対して早期介入を実施
  - ➔ 発達課題について保護者の気づきや適応が向上



5歳児健診では、いわゆる気になる子への支援が含まれている



# 今後は5歳児健診が展開

## ●目的

こどもの特性を早期に発見し、特性に合わせた適切な支援を行う

- 幼児の健康の保持及び増進
- こどもの社会性発達の評価
- 発達障害等のスクリーニング
- こどもや子育てへの支援の必要性などの評価

健康を決定する社会的要因の評価、生活習慣や養育環境、虐待リスクの評価等

# 今後は5歳児健診が展開

## ●様式

- 原則、市町村保健センター等において行う集団健診
- 必要な児・保護者に対して多職種による専門相談及び健診後カンファレンスを実施
  - ※ 巡回方式や園医方式を組み合わせて実施する場合を含む。
- 保護者の気付きや適切な支援につなげるための多職種による幼児・保護者等に対する相談支援（専門相談）



保育所など集団の中での課題についての情報が重要になってくる

# 5歳児健診から始まる支援

発達障害が認知される時期



就学に向けた支援・相談を開始



就学後の困難を軽減  
より高い自己評価



就学適応の向上へ

こどもや子育てへの支援の  
必要性評価



生活習慣保健  
指導

- 運動習慣
- 睡眠時間
- メディア利用
- 食習慣 等



健康を決定する  
社会的要因の  
評価  
虐待リスク評価  
➡支援・見守り



5歳児健診により学童期の不登校発生数が減少という報告もある

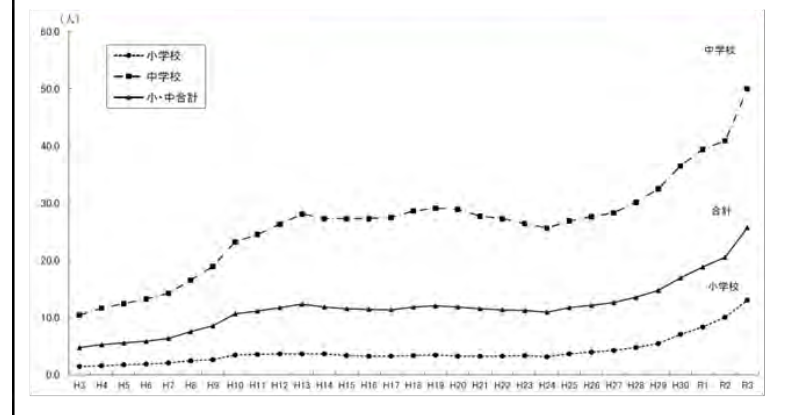
# 5歳児健診から始まる支援

## 就学後に直面する課題

就学後に特別な教育的配慮が必要な  
児童・生徒が約8.8%  
(学習面又は行動面で著しい困難を  
示している)  
文部科学省調査

### 増加する不登校児童

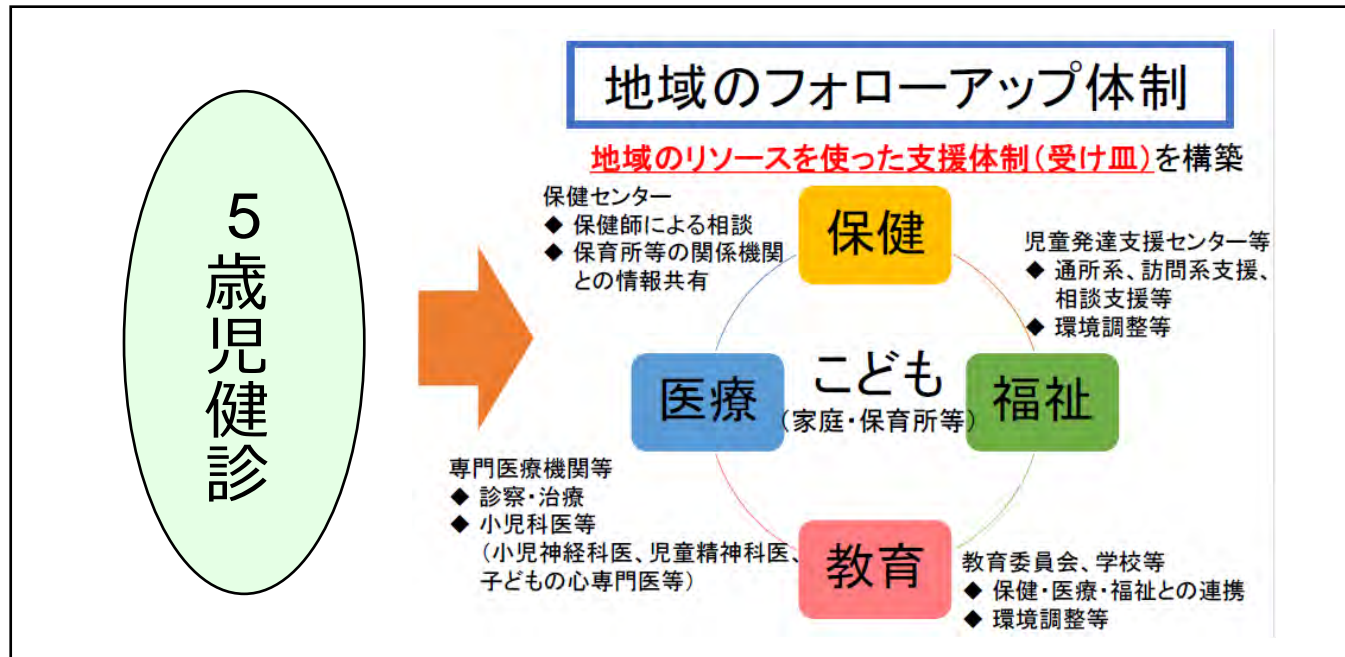
不登校児の増加傾向  
(千人当たり：文科省)



就学前に支援を開始することで就学適応の改善を！

# 5歳児健診の目的は保護者の気づきや適切な支援

子どもたちにレッテルを張ることが目的ではない



保育が今後どの様に地域のフォローアップ体制と上手に連携していくのか、大事なポイントになる

## 発達障害を理解することは

- 比較的頻度の高い特性や偏りのパターンを理解する
- その特性を持つ子どもの困った行動を理解する（なぜそのような行動をとるのか）
- そうした困った行動にどう対応したらよいのかを理解する
- そうした困った行動にどう対応してはいけないのかを理解する
- 子どもたちの望ましい行動を増やす
- 子どもと楽しい時間を過ごすことができる
- 子どもが学校で経験する困難を減らすことができる

# 保育への期待は大きい

日本社会の変化  
保育を国として重要視



全家庭の子育て家庭支援  
の拠点



保育への期待 広がる社会の中での役割

こどもの貧困  
虐待ネグレクトの増加



地域と連携し地域の子育て  
支援拠点として



良質な保育の提供が日本社会の未来に重要